

着物教室主宰の岸本さん(岡山)デザイン

帯締め用の真田紐販売

県立大生 パッケージ考案



岸本さんが商品化した真田紐

岡山市東区で着物教室を主宰する岸本浩加さん(44)が、帯締めに使った真田紐をデザインした。県立大(総社市窪木)の学生がパッケージを考案し、産地の倉敷市児島地区で販売している。

紐(長さ約1.3m、幅約1.5cm)は赤色や金色で華やかさを演出したものと、からし色をあしらって落ち着いた風合いに仕上げたものの2種類ある。伝統産品として再興に取り組み坂本織物(倉敷市児島唐琴)が販売に協力、製造も手掛けた。

紙製のパッケージ

は、岡山市内でデザイン事務所を営む知人の佐藤豪人さんを介し、同大デザイン学部4年並河実穂さんが製作。半円形で、外側にV字に巻き付けた紐が着物の襟元のように見える。1本2千円で、倉敷せとつち児島ホテル(同市下津井吹上)のショップで購入できる。

「根付け紐などにも使える。ぜひかわいがって」と岸本さん。問い合わせは岸本さん(090-4869-7084)。

(三宅教之)